

主催

令和6年度

ECEQ® 実施園記録

作成日 2024年 11月 29日

作成者 (教頭) 柴崎 和見

基礎情報内容	実施園情報
法人名	学校法人啓朋学園
理事長名	三塚 薫
園名	緑ヶ丘第二幼稚園
園長名	三塚 薫
担当者名	柴崎 和見
住所	仙台市青葉区旭ヶ丘4-8-17
電話番号	022-234-3030
FAX 番号	022-234-3045
メールアドレス	info@midoriko.ac.jp
園児数	満3歳～5歳児 104名 + 2歳児 8名 (仙台市子育て支援事業)
学級数と人数	年長組 2クラス 31名 / 年中組 2クラス 32名 / 年少組 1クラス 22名 満3歳組 1クラス 27名 / 満2歳児 5名
教職員数	22名

メインコーディネーター名	園名 千葉幼稚園 氏名 岡本 潤子 先生
サブコーディネーター名	園名 矢本はなぶさ幼稚園 氏名 鈴木 重子 先生
各STEP実施履歴	STEP 1 2024年 7月 17日(水) 13:00 ~ 14:00 STEP 2 2024年 7月 17日(水) 14:30 ~ 17:00 STEP 3 2024年 9月 12日(木) ~ 10月すぎ STEP 4 2024年 10月 18日(金) 9:30 ~ 16:45 STEP 5 2024年 11月 13日(水) 14:30 ~ 15:50

STEP1 事前訪問（トップリーダーヒアリング）

実施園参加者	園長、教頭
コーディネーター	岡本 潤子先生 鈴木 重子先生
実施日時	2024年7月17日 13:00～14:00
場所	緑ヶ丘第二幼稚園 職員室
確認した自園の良さ・・・	
<ul style="list-style-type: none">・各クラス担任と幼児の関わり。日々の保育は、担任と子どもたちが創り上げていくものと考えているので、教師から子どもに教えるというスタンスではなく、子どもたちの声を聞きながら一緒に体験して学んでいくというスタンスをとっていること。・遊びを通して獲得する力、表現する力を大切にしていること。・園を良くしていきたい、幼児にとってより良い関わりをしたいという思いが職員の中にあること。・「〇〇が難しいなら△△をしてみよう」という工夫する力が園の伝統の中にあるので、教職員も工夫して考えることを学び取り組むことが多いこと。・担任教員のチームワークが良いこと。・幼児の育ちを長いスパンで見ることができることから、担任とクラスは持ち上がり（やむを得ない事情を除く）としていること。	
確認した自園の課題・・・	
<ul style="list-style-type: none">・園の課題や幼児の姿等に気がつく力はあるが、そこから自分たちはどう動いたらより良くなるのかを積極的に考えるまでにはたどり着けていないのではないか。・主体性の受け止め方が個々によって差があるのではないか。副担任の中には、担任経験者と担任未経験者もいる。同じことを伝えても受け止め方が異なってしまう意図が伝わらないこともあった。・共有の面。園の考えを全教職員に伝える努力をしているが、人によって捉え方が異なることもあるため、どのように伝えて、保育への向き合い方を考えていってもらうかが課題。	

STEP2 事前研修 (現場の先生方との園内研修)

実施園参加者	園長、教頭、担任、副担任、預かり保育担当、広場事業担当
コーディネーター	岡本 潤子先生 鈴木 重子先生
実施日時	2024年7月17日 14:30~16:00
場所	幼稚園ホール

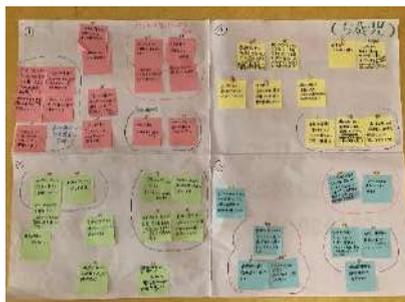
確認した自園の良さ・・・

- ・ 幼児自身が考えて選択する園環境。主体的な行動、考えに柔軟に対応できる環境。「やりたい」を実現できる環境。
- ・ 一人ひとりの意見を大切にする。なんでも話し合いをして共有していく。自分たちで考えを出し合い決めていく。
- ・ 幼児と一緒に遊ぶ。信頼関係を築く。幼児の主体的な姿を考える教師の姿勢。
- ・ チーム保育。園全体の雰囲気。異年齢との交流。遊びの選択が広い。

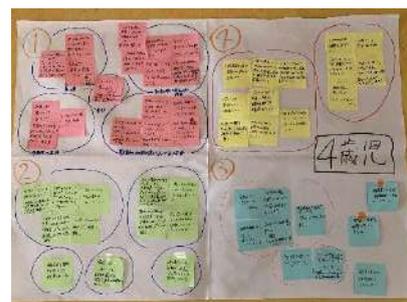
確認した自園の課題・・・

- ・ 主体性の捉え方が個々によって異なっているのではないか。みんなが主体的に取り組める環境構成。
 - ・ 個別の援助の難しさ (クラス活動・一人ひとりに適した援助・生活面の配慮等)
 - ・ 教師自身の保育の課題
- ⇒ 幼児への対応。自分に余裕がない。思いを組み取りながら、方向性を決めてしまっていないか。遊びや活動の目的やねらいの理解が十分ではない。保育を共有する時間が少ない。

実施風景や成果物など (画像)



A) 田の字法 5歳児



A) 田の字法 4歳児



A) 田の字法 3歳・満3・満2歳児



B) Aを項目毎にまとめたもの

Step 2 「田の字法」から読み取る	
<p>法則性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児自身が考え、選択する環境 ・ 一人ひとりの意見を大切に。なんでも話し合いをして共有していく。 ・ 自分たちで決める。 ・ 幼児自身が考えて選択する園環境。 ・ 主体的な行動、考えに柔軟に対応できる環境。 ・ 幼児と一緒に遊ぶ。信頼関係を築く。 ・ チーム保育。園全体の雰囲気。 ・ 異年齢との交流。 ・ 遊びの選択が広い。 	<p>実践例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の興味・関心への対応 ・ 幼児のやりかた・ペースの調整 ・ クラス活動・一人ひとりに適した援助 ・ 生活面の配慮 ・ 教師自身の保育の課題 ・ 幼児への対応 ・ 自分に余裕がない ・ 思いを組み取りながら、方向性を決めてしまっていない ・ 遊びや活動の目的やねらいの理解
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主体性の捉え方が個々によって異なっているのではないか。 ・ みんなが主体的に取り組める環境構成。 ・ 個別の援助の難しさ (クラス活動・一人ひとりに適した援助・生活面の配慮等) ・ 教師自身の保育の課題 	<p>実践例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的に取り組める環境構成 ・ 個別の援助の難しさ (クラス活動・一人ひとりに適した援助・生活面の配慮等) ・ 教師自身の保育の課題 ・ 幼児への対応 ・ 自分に余裕がない ・ 思いを組み取りながら、方向性を決めてしまっていない ・ 遊びや活動の目的やねらいの理解

C) Bをまとめたもの



D) 話し合いの様子

STEP3 「問い」づくり (現場の先生方との園内研修)

実施園参加者	園長、教頭、クラス担任、副担任
コーディネーター	岡本 潤子先生 ・ 鈴木 重子先生 <zoomやメールにて>
実施日時	2024年9月12日～9月20日(zoomアドバイス)～10月初めまで
要した日数	25日位

「問い」づくりで気づいたこと、感じたこと、思ったこと

- ・副担任と保育について共有することの大切さ。複数教員と話すことで自分の保育がより見えてくることのおもしろさ。様々な視点で考える大切さ。言語化することの大切さと難しさ。
- ・教師自身が保育のねらいを明確にしておくことで、幼児の姿の変化に気が付きやすくなると感じた。
- ・問いを考える中で、4月から(または入園当初から)現在に至るまでの幼児の姿や育ちを振り返るきっかけになった。
- ・クラスの姿に対し、どんな悩みや課題を持っているのかが具体的に示されたと思った。
- ・もっと自分で試してからより詳しく「問い」を作ると参加者の方が答えやすくなったのではないかと思った。

完成した「問い」

さくら組(3歳児) 担任 佐藤 愛実

1学期は、園生活を楽しみながらのびのびと過ごしてほしいという願いを持って関わってきました。一人ひとりが自分のペースで新しい園生活に慣れ、自分で好きな遊びや場所を見つけて遊べるようになってきました。これからも、のびのびと自己表現、自己発揮ができる環境、自分から遊びに向かっていく姿を大切にしていきたいと考えています。

問: 本日は、幼児の興味や思いを受け止めながら遊びを広げられるよう環境を設定しました。幼児の姿から気が付いたことを教えて下さい。また、3歳児一人ひとりに寄り添いながら関わるために気を付けていること、心掛けていることは何ですか。

ぽぷら組(4歳児) 担任 高野 なつみ

年少の時は、自分の思いや気持ちを友だちや教師に表現しながら、好きな遊びを楽しんでいました。年中になり、一学期は、友だちの「気持ち」に気付き、相手を思いやりながら関わりを楽しんでほしいと願って指導をしてきました。自己を表現しながらも、少しずつ、周りの友だちを意識したり、気づかたりする姿が見られるようになっていきます。

問: 「個」の遊びが、本で行ったようなステージごっこ等の「協同」の遊びへと発展をしていく発達段階にあります。子どもたちの様子をご覧になり、友達との関わりの様子で気が付いたことがあれば教えて下さい。又、クラスの遊びに入らない幼児への具体的な対応のポイントを教えて下さい。

もも組・こもも組(満3歳児・満2歳児) 担任 金子 友紀

1学期は、教師との信頼関係を基盤に、安心感の中で幼児一人ひとりが「その子らしさ」を大切に、様々な思いを発揮してほしいという願いをもって関わってきました。

2学期になり、様々な友だちと関わる中で刺激を受けつつ、小さな「できた!」から自信をもって過ごしてほしいと思いながら保育をしています。

問: 満2歳児、満3歳児と一緒に過ごす中で、満3歳児なりに自分ができることを年下の幼児に見せたい気持ちがあります。一方で、個人差が大きく「これはいや」「〇〇がしたい」「自分でやりたい!」等の声が聞こえてにぎやかな毎日です。貴園の満3歳児のお子さん方が楽しんでいる遊びを教えてください。

いちよう組(4歳児) 担任 佐藤 愛結花

年少の時は、それぞれが好きな遊びを楽しんだり、友だちより教師と遊んだりする姿が多くみられました。年中になり、転入児5名を迎え、友だちの存在をより意識するようになって、気の合う子同士遊ぶ姿が見られます。今ある友だち関係を大切にしつつ、他の友だちの良さに気付いたり、自分とは違う意見も肯定的に受け止めたりしてほしいと思いながら保育しています。

問：『友だちへの興味や思いやりの心を育んだり、友だちの良い所に気が付き関わりを深めたりするようになる。』というねらいで、今日の活動を計画しました。活動の様子をみて、良かった点と改善点について教えてください。

やなぎ組(5歳児) 担任 牛渡 綾那

年中の頃から、発言力のある幼児数名が中心となって遊びを提案したり話し合いがすすむことが多く、その環境に他の幼児が入り更に遊びが広がっていました。一方で、遊びのきっかけがいつも同じ幼児になりがちで、他の幼児にとって、自分の考えに自信がもてず発言・表現しにくい様子も見られました。年長になり、一人ひとりが自分の考えや思い、得意なことを集団の中で自信をもって表現できるようになってほしいと思い、その方法や環境を模索しながら援助しているところです。

問：本日の活動の中で友だちとの会話が弾み、意欲的に取り組むことを意識して接しています。子どもたちの姿で気が付かれたことを教えて下さい。又、貴園で幼児が自己表現する為に工夫している環境があれば教えて下さい。

かしわ組(5歳児) 担任 加藤 花菜

年中の時、一人ひとりが、ブロックを好きなキャラクターに見立てて遊ぶことが好きでした。年長になり、友だちとアイデアを出し合い、力を合わせて協同で遊ぶようになってほしいという願いをもって指導していく中で、数人の気の合う友だちとブロックで作品を作ったり、ピタゴラを1つに繋げたりして友達との関わりを深める姿が見られてきています。今は、クラス全員の遊びとしてチーム対抗で、友だちと考えながらどのチームが高くブロックを積み上げられるかを競うゲーム等をして、協同で遊ぶ経験を増やしているところです。

問：個々の遊びがクラス全体の遊びへと変化していく為に、先週からピンポン玉を加え環境の再構成をしています。子どもたちの声や姿から環境がどのように生かされていたか教えてください。

STEP4 公開保育

実施園参加者	全教職員
コーディネーター	岡本 潤子先生 鈴木 重子先生
実施日時	2024年10月18日 9:30～16:45
分科会数と各参加者数	5歳児 3分科会 (各7名ずつ) / 4歳児 3分科会 (7名、7名、8名) 3歳児 2分科会 (各7名ずつ) / 満3歳児、満2歳児 1分科会 (13名)
参加人数	83名

当日のスケジュール

9:30 受付	12:40 昼食・休憩・ファシリテーター打ち合わせ
10:00 オリエンテーション	13:00 分科会 (研究協議)
10:10 公開保育	14:45 全体会議 (分科会研究報告会)
11:25 オリエンテーション	16:00 閉会行事 (16:45終了)

STEP4 で気づいたこと、感じたこと、思ったこと

参加者の方々が受付の段階でどのグループに入りたいか、クラスの活動内容を見て真剣に選んでくださったのが印象的だった。クラスによっては、観察だけでなく参加していただく様子もあり、より本来の幼児の姿が見られていたように感じた。今回ECEQを取り入れたことで、教師が知りたいと感じていることを「問い」にし、それについて直接語り合うことで明確に知ることができていた。また、普段の保育の中で、子どもたちにとって良いことは何だろうと考えながら過ごしていても、“これでいいのかな…”と不安に感じたり悩んだりしてしまうことがあったので、保育に関する“いいね！”素敵だね!“を伝えてもらうことは、教師自身の安心と次への意欲を高める機会となった。

これまで幼児の姿を共有し合いながら保育を考えてきたが、他園の先生に自分たちの保育をいかに伝えるかを考えながら取り組んだことは教師間の共通理解と協力体制を築くうえで良い学びとなった。

参加者の様々な意見の中であつたように、「一番大きな環境であるのが人的環境である」ことを改めて考えさせられた公開保育となった。

STEP4 の様子 (画像)



3歳児 さくら組



4歳児 ぽぷら組



5歳児 かしわ組



話し合いの様子



話し合いの様子



全体会



まとめた付箋の写真



まとめた付箋の写真



まとめた付箋の写真

無償化で運営費のほとんどが公的資金となり、私立幼稚園も評価の必要性が問われるようになりました。今年度宮城県で東北地区教員研修大会が開催されることを機に、ECEQを活用した公開保育に踏み出しました。公開保育に対する緊張はありましたが、研修を通して多くのことを学べることから、挑戦してみたいという思いが教職員間に感じられました。全員で研修を受ける機会や担任と副担任が話し合う時間がもう少し作れたらいいねと日頃から話していたので、この機会を大切にしようとの思いが膨らみました。

STEP 1・2ではコーディネーターの岡本潤子先生とサブコーディネーターの鈴木重子先生にお会いし、ECEQのことが分かり始めると、教職員（特に副担任）が「色々話せてよかった。」「次はどんなことをするのですか。」と、学ぶことに前向きな発言をしていくことが増えていきました。付箋を使い、同じ意見があること、違った見方があることなどを知りながら、クラスのこと、園全体のこと、課題や原因を出し合ったことで、教員同士が共有する大切さにあらためて気付くことができました。その後、今まで以上に担任と副担任が情報交換することが増えたことが収穫でした。

STEP 3「問い」づくりは、担任同士の語り合いが増えました。先輩教員が自分の体験を伝えたり、読み取った幼児の思いからどのような環境が必要なのかを出し合ったり。クラスの幼児の姿を伝えるために、何度も考えていきました。「これが本当に聞きたいことかしら」と一人ひとりがクラスのことを思いながら一生懸命考え、悩んだ時期でした。「振り返り」は毎日保育日誌を書きながら今までも行っていましたが、STEP 4の公開保育へ向けて、「参加者の方に伝えたい自分の保育とは…」という観点があったことで、より濃い「振り返り」が生まれていきました。コーディネーターの先生からのアドバイスもあり、「問い」に選んだ部分の教育要領内容を詳しく読み取ることもつながりました。

STEP 4の公開保育では、日々当たり前前にしていたことに“いいね”を頂いたことがとても嬉しかったです。それが自園の良さであることに気付かされました。また、問うことで見えてきた新しい視点の数々に保育のヒントが見つかり、幼児の見方や遊びがより深まるきっかけになりました。「問い」があることで、その日初めて当園の保育を見た方々ともクラスの悩みについて共に語り合えたことがわかりやすく良かったです。また、公開保育を迎えるにあたり、他園の参加者にどうしたら園の保育を伝えられるのか、担任が何を考えクラスづくりをしてきたかをどう伝えていくのかという点で、「問い」の前に幼児のそれまでの姿をいれてみました。さらに指導計画の表現の見直しもしました。当園は幼児の遊びが教師主導の遊びとまらないよう週案・日案がありません。そのため指導計画の中に幼児の予想される姿やねらい、経験の幅を広げる遊び、配慮事項などを入れます。頭でわかって考えているものの、それが伝わる書き方とは？どうしたら理解していただける？と言語化する難しさと表現方法を学び続ける必要性を感じました。自分たちの保育を客観的に見ていただけることは、step 2で課題としていた「主体性の捉え方」や「教師自身の保育の課題」等を考えるうえで非常に大きな収穫でした。

STEP 5は、公開保育を終えての気持ちを共有し合う中で、これからの課題が新たに見えてきました。今回の取り組みの中では「皆で考える」ことでの相乗効果を体感してきました。今後はECEQで実践してきた方法を自分たちで再度実践に移しながら、新たに見つけた課題を解決していけるようにさらに協力していきたいと思います。

ECEQの旅の中では、コーディネーターの先生方に遠方から何度も足を運んでいただきました。STEPのひとつひとつが発見であり、考えることの楽しさを教えていただきました。共に寄り添っていただいたことが何よりの励みになりました。本当にありがとうございました。今後は、ECEQを通して見つけた園の良さを大切にしながら、教職員みんなと共に考え、それを共有していくことを大切に取り組んでいきたいと思っています。